

2026 年 9 月 14 日

研究休暇報告書

南山大学長 殿

所 属 人文学部人類文化学科

職氏名 教授 石原美奈子

受入研究機関等：エチオピア連邦民主共和国オロミア州ジンマ県、ジンマ大学、および南西エチオピア諸民族州ベンチ・シェコ県

期間：2025 年 9 月 16 日～2026 年 9 月 15 日

目的：下記の研究を推進するため

1. エチオピア南西部地方統治の実態解明
2. エチオピア南西部のムスリム知識人の人生史を通したイスラーム化に関する研究
3. エチオピア南西部のベンチ社会に関する調査研究

内容：

1. エチオピア南西部地方統治の実態解明

ジンマ大学に新設されたアーカイブズ・センターは、ジンマ市内の旧カファ州庁、農業局、教育局、保健局、ジンマ市役所に保管されていたイタリア統治期（1936-41 年）・帝政期（-1974 年）・デルグ政権期（-1991 年）の行政文書を所蔵しているが、目録作成の段階にあり、それを一次資料として用いた研究はまだ行われていない。今回その中から、帝政期からデルグ政権期にかけて旧カファ州庁に保管されていた行政文書ファイル（「カファ州聖職者事務所、ショワ・バル聖ミカエル教会入植者関連 1943-70(EC)」）を解読し、行政文書を用いた歴史人類学的研究を行った。これについては、第 22 回国際エチオピア学会（アワサ市開催、2025 年 10 月 2 日）などで口頭発表を行うとともに論文執筆（*Africa Bibliography, Research and Documentation* に掲載予定）を行った。今回は、一つの行政文書ファイルの分析を通じた歴史人類学的研究を行うにとどまったが、エチオピアにおける行政文書を用いた研究の可能性を示すことができ、今後さらに研究の進展と深化を行う土台を整えた。

2. エチオピア南西部のムスリム知識人の人生史を通したイスラーム化に関する研究

ジンマ市を中心とするジンマ県のイスラーム化は、数多くのムスリム知識人の業績の成果であり、私はそうしたムスリム知識人一人一人の学習・修行・教育の営みや社会との関わりを記録していく作業を 1990 年代より行っている。今回も、ジンマ県に住む何人かのムスリム宗教指導者の人生史に関する情報を収集し、現在ジンマのイスラーム化に関する論考

を執筆中である。

3. エチオピア南西部のベンチ社会に関する調査研究

2025 年 10 月～2026 年 1 月にかけて、現地調査を実施した。その成果については、日本ナイル・エチオピア学会第 35 回学術大会（2026 年 4 月 18 日、中村結友と共同発表）で口頭発表を行うとともに論文執筆を行った。ベンチ社会については、帝政末期とデルグ政権期末期以来、人類学的研究が行われておらず、現在大きな社会変化と宗教変容が起きている同地域の広域調査を実施し、今後の調査研究のための人間関係構築と歴史景観の把握を行うことができた。これについても、現在論文を執筆しているところである。

以上